

1955年の創業以来、女性のライフスタイルに合わせた独自の商品を展開するカタログ誌『ベルメゾン』を主軸とした16種類のカatalog事業や、ネット販売などの通信販売事業を幅広く行っている株式会社千趣会。同社では、2010年の12月に内定者研修の一環としてマイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS試験)を導入。

導入の経緯やその効果などについて、経営企画本部 人事部 人材開発チームの岸村 基貴さんと野々尾 真さんにお話をうかがいました。

2011年度の内定者研修から導入 — 新入社員のPCスキルを平準化

株式会社 千趣会(以下、千趣会)が、マイクロソフト オフィス スペシャリスト(以下、MOS試験)を内定者研修に取り入れたのは2010年の12月。MOS試験の導入に至った経緯を、人事部 人材開発チームの岸村さんは以下のように説明します。

「MOS試験を導入するに至った一番の理由は、入社までに内定者のパソコンスキルを平準化するために有効な資格だと思ったからです。MOS試験については2010年の夏に送られてきた無料受験キャンペーンのDMで知りました。その頃、新入社員のパソコンスキルの格差に悩んでおり、公式サイトに載っている他企業のMOS試験の導入事例を読んだところ、同じような悩みを抱えている企業が多いことを知り、この資格を弊社の研修でも効果的に使えるのではないかと考えました。また、国際的に通用するMicrosoft®認定の資格だという点も、汎用性の高さということから導入の決め手になりました」

2010年の内定者研修として、MOS試験のExcel®を入社時までに各自で受験するスタイルを導入。10月の内定式にはMOS試験のガイダンスを行い、対策テキストと受験チケットが配布されました。内定者研修に資格取得を位置づける理由について、岸村さんは以下のように話します。

「ガイダンスでは、“入社後は最低でもExcelは使えないと職場で苦勞する”ということはしっかりと話して聞かせ、MOS試験に合格するようにと説明しました。当初は、内定者研修で資格取得までは必要ないかな?と思いましたが、やはり勉強の先にゴールがあったほうが学生たちも取り組みやすいと考え、受験してもらうことを決めました」

“資格取得”という目標に照準を定めた結果、

内定者はほぼ一回の受験で合格したとのこと。岸村さんと同チームで働く2012年度入社野々尾さんは、2011年の11月に受験。勉強は対策テキストを使って約1カ月をかけて、実際にExcelに触りながら知識とスキルの双方を習得していったそうです。

「内定をもらった後、Excelをある程度使えないと入社してから厳しい、という噂を聞いていたので焦っていました。しかし、入社前に会社の支援でMOS試験を受けさせてもらえたことで、不安も払拭できたので感謝しています」

実際の業務で活かせるスキル

— どの部署でも使用頻度の高いExcel

千趣会には、“Excel多用文化”があるとのこと。で、「当社ではExcelはできて当たり前」と言う岸村さん。具体的には、どのような業務でExcelが多用されているのでしょうか。

「当社では、どの部署に配属されても必ずExcelのスキルが必要になります。あとは、PowerPoint®ですね。Excelに関しては、経理部門はもとより、商品管理部門などでは何10万点もある商品の管理や型、色展開、売上管理などのすべてをExcelの表で集計・管理しています。人事部でも従業員名簿などはExcelです。その他、営業部門の提案書や人事部の新卒説明会などのプレゼンテーションにはPowerPointのスキルが必須です」

また、入社前に基本的なスキルを習得した野々尾さんは、MOS試験の受験が実際の業務で役立っていることを日々実感していると言います。

「上司から頼まれる資料は、Excelのいくつかの関数や機能を複合的に組み合わせることを前提にして作成するものが多いんです。頼まれた時点で、どのように作れば効率よく仕上げら

株式会社千趣会
入社前のパソコンスキルの格差を解消するために入定者研修を導入
資格取得後は、配属先の業務に役立っていることを日々実感

創造を支える基礎スキル

— クリエーティブなアイデアを生み出すために

千趣会には、“社員の心得”という行動指針に類するものがあり、「創造」「主体」「対話」「達成」「礼儀」という5つの柱が掲げられています。これらはクリエイティブな発想で仕事を創っていくときの軸となる要素として、社内スローガン『世界一女性を笑顔にする会社』を目指すうえで、個々の社員がどのように行動するべきかを考えるための羅針盤となっています。この5つの要素を胸に刻んだ新人たちも、パソコンを使った業務スキルを身につけているため、効率的に仕事をこなし、新しいアイデアを考えるための時間を生み出すことが可能になっているそうです。パソコンスキルを一定レベルに保つためにも、内定者研修でMOS試験を行い、新入社員研修でExcel 1日研修を実施するという流れは、今後も続けていく予定にあるとのこと。

部署や入社年度を問わず、誰もが自身の持ち場でクリエイティブな仕事を実践する千趣会。その根底には、社員一人ひとりの基礎スキルの盤石さがあるようです。

れるかがパッとわかるのがMOS試験を受けたことの何よりの成果だと思っています。ここでExcelの使い方を一から教えてもらわないと仕事が進まなければ、上司と自分のお互いにとって時間のロスになってしまいます」

内定者研修に導入したメリット

— 資格取得から実務研修へ

内定者研修にMOS試験を導入した結果、当初の狙いに即した成果が出ていると、岸村さんは感じているそうです。

「実は以前に、EC系部署のマネージャーから、『新入社員研修で、せめてExcelに触れるようにしてから配属してほしい』という要望が出たことがありました。内定者研修でMOS試験を行う以前は、大学でExcelやPowerPointに触ったことのない人もいました。MOS試験を導入してからは、新入社員は基礎知識をインプットされた状態で入社してくるようになったので、“Excelが使えなくて困る”といった社内からの苦情はなくなりました」

さらに、入社時のパソコンスキルの平準化が図られたことにより、新入社員研修(Excel 1日研修)もより効果的に行うことができるようになったと岸村さんは言います。

「私が入社した頃の新入社員研修は、まったくExcelを使ったことがない人にレベルを合わせていました。私個人は、大学でExcelを使っていたため、その研修内容を物足りなく感じましたが、美大出身者や文系の大学から入社してExcelに馴染みのない人たちには難しかったようで…。研修のレベルを、使える人に合わせるのか使ったことがない人に合わせるのか、パソコンスキルのレベル格差については、研修内容を検討する際の悩みの種でした。

MOS試験を導入してからは、新入社員研修を受ける全員が初級レベルを身につけていますから、IF関数やVLOOKUP関数などを組み込んだ、より実務に沿った効果的な研修内容を組み立てられるようになり、抱えていた悩みも解消できました」

内定者研修でMOS試験を受験して、新入社員研修で千趣会の実務に必要なExcelスキルを学ばせる。この一連の流れが、新入社員のパソコンスキルの格差解消にうまく効果を発揮しています。



取材にご協力いただいた経営企画本部 人事部 人材開発チームの岸村 基貴さん(右)と野々尾 真さん

株式会社 千趣会 <http://www.senshukai.co.jp/>

所在地 大阪府大阪市北区同心1-8-9

従業員数 1,578名(2011年12月31日現在。連結含む)

1955年設立。カタログ通信販売「ベルメゾン」をはじめ、ファッションやインテリアに役立つ商品販売など、幅広いジャンルで事業を展開。企業ビジョン「ウーマンズマイルカンパニー」を掲げ、約1,200万人の会員に対して、さまざまな新しいサービスを届けている。事業所は、大阪本社のほか、東京本社、海外事業所8カ所。